



清 泉

令和 5 年 6 月 9 日
昭島市立清泉中学校
校長 佐藤 晴美

昭島市立清泉中学校 〒196-0024 昭島市宮沢町1-9-1
電話042-541-0762 FAX042-541-6869 <http://www.city.akishima.ed.jp/~seisen/>

可能性は無限に～それを支えるものを育てていく～

今回は少し堅苦しい話から始めます。

現行の学習指導要領*には、次のようなことが記されています。

*学習指導要領とは各学校が教育課程を編成・実施する際の基準として文部科学大臣が公示する告示

一人一人の児童（生徒）が、自分のよさや可能性を認識するとともに、あらゆる他者を価値のある存在として尊重し、多様な人々と協働しながら様々な社会的変化を乗り越え、豊かな人生を切り拓き、持続可能な社会の創り手となることができるようにすることが求められている。

私は、担任をしていた時から、生徒も一人の社会の一員であり、次代を担う人材ということ念頭に置き、総合的な学習の時間を中心に、教科の指導や道徳、特別活動を行っていました。今もその考えは変わらず、清泉中学校で何ができるか教職員の思いも捉えながら、学校教育はどうあるべきかを考えています。

生徒は、大人が思う以上に、深い考えをもち、斬新なアイデアを発することがあります。それは、常識にとらわれることなく、純粋な自らの心で社会や事象を捉え、疑問をもつことができる年代でもあるからでしょう。その力を大いに学校や地域で生かしていきたいと考えています。

生徒自身が考えする機会を設定し、その考えを「聴き」、そして「質問」する。「質問」は注意でもなければ指導でもない。生徒の考えをより多角的・多面的に視野を広げていくための学びの過程（プロセス）としていく。そして生徒が考えたことを具現化するチャンスを設定していく。もう一つ大切なことは、「安心して、チャレンジできる」、「チャレンジして失敗することはいいことだ」と思える温かい環境を大人がしっかり作っていくことだと私は考えています。

さて、先日開催しました本校の体育大会には、1150名を超える保護者・地域の方々にご来校いただきました。ありがとうございました。いかがでしたでしょうか？清泉中学校の生徒の姿。私は、自信をもって「素晴らしい！」と言えます。そして誇りです。「当たり前」だった体育大会が「当たり前」でなくなった3年間を乗り越え、全校練習や予行練習で体育大会実行委員長の溝端さんは、その当日の仲間たちの様子から、その日にふさわしいメッセージをその場で考え伝えていたそうです。大人では事前にいろいろ準備をしていますがちです。でも、生徒は柔軟であり勇気があり、その姿が全校生徒の心に届き、全校生徒もその思いに応えるために力を尽くしていました。体育大会当日も「楽しむこと」を溝端さんは伝え、それをみんなは笑顔で受けていました。

係は予行で段取りだけを確認。応援はもちろん練習していませんでした。当日の生徒たちは自ら今何が必要か考え、自らの係を行っていました。仲間の安全のために走路に落ちている物を素早く取りに行く姿や悔しい思いをしている仲間へ声をかける姿など、紹介しきれないくらいの光景がありました。さらに伝えたいのは応援です。体育大会は、勝敗のある行事です。自分の学級に応援する様子は今までも見てきました。でも、この日は違いました。自分の学級のみならず、他の学級や学年の仲間にも大きな声で応援していました。また、大縄跳びで記録が更新するたび、「すごい！」と純粋に驚き拍手をおくる生徒の姿、そしてさらに頑張ろうとする姿は、誰もが感動するものでした。

☞生徒の考える力を評価したい、考えたことを生かしていきたい■

生徒たちの様子を見ながら、校内の掲示物も見ています。その中に、3年生の修学旅行関係の掲示物があります。私が今までよく見ていた修学旅行の掲示物は、見学場所やお土産などについて調べて紹介するものが多いのですが、本校の3年生の掲示物は一味違い、調べた内容をもとに、自らの考えが述べられていました。少しでもここで紹介をさせていただきます。

【北野天満宮】結果を決めるのは自分だが、願うことはその自分に自信をつけてくれる。

(SDGs 4と11)

【天龍寺】夢窓国師は天龍寺に様々な思いを込めて作ったんだと考えました。そうした思いに配慮すると同時に、ごみを捨てるなど今ある環境を変化させてはならないといった考えも学びました。

(SDGs 8と11)

【平城京】昔からある伝統を受け継ぐ、続けていくこと、今の日本社会にはそれが必要だと思った。

約1300年という歴史を大切に何か特別なものだけを大切にではなく、身の回りにあるものなども大切にすべきだと改めて感じました。

(SDGs 9と11)

【聖護院】今と昔の文化を比べると変わったところがあるかもしれないけれど変わらないこともある。それは今も昔の文化もどちらも美しく、一つ一つのものに作った人の思いが込められていることとだと思った。だからこそ、これからも大切に文化や宝を守っていこうと伝えていると思った。

(SDGs 11と12)

【唐招提寺】何回失敗してもあきらめずに、続けることが必ず報われる。

(SDGs 11と12)

【北野天満宮】菅原道真が幼い頃から学業に励み、「学問の神様」と後世の人々に呼ばれるまでになったことを考えると、どの時代においても勉強するということは、とても重要であると現代の私達に伝えてくれているのではないかと思います。

(SDGs 4と15)

【禅林寺】自分自身をみかえしたり、周囲をみつめたりすることを大切にすること。

(SDGs 10と11)

【平等院】今の日本にこの文化はほとんど残っていないが、当時の人々、主に庶民の間では広く普及しており、政治の中心であった。我々、今の日本人と寺や仏教に対する考え方の違いや高性能な機器がない中で、外見や装飾を工夫し、現代にも残るものを作り上げた人々の知恵や意思を読みとることができる。

(SDGs 11と15)

【慈照寺】芸術のすばらしさ、美術に差別はないということ。

(SDGs 11と16)

【龍安寺】不完全なことに不満をもたず、今あるものに満足して感謝するべき。

(SDGs 3と17)

【平安神宮】人々の熱意や協力によって、神社を建てる等、次代に大きな影響を与えることができる。

(SDGs 3と11)

【東大寺南大門・金剛力士像】南大門は台風で倒れてしまったけれど、諦めず再建したことは、大地震の大きい被害に対して諦めずに復興したことに少し似ていると思ったから、次の時代にも思いと物を残すことが大切。

(SDGs 11と13)

【醍醐寺】寺の長い歴史の中では、様々な人が助け合い、協力しているので、現在も同じように人々は助け合うべき。

(SDGs 11と12)

【平城京】この時代には必ず政治の中心があり、簡単には無くならない大きい城をつくり、その象徴を表していると思うから、中心がはっきりすることによって組織もまとまる。

(SDGs 11と15)

SDGsの17のゴール

- 1 貧困をなくそう
- 2 飢餓をゼロに
- 3 すべての人に健康と福祉を
- 4 質の高い教育をみんなに
- 5 ジェンダー平等を実現しよう
- 6 安全な水とトイレを世界中に
- 7 エネルギーをみんなにそしてクリーンに
- 8 働きがいも経済成長も
- 9 産業と技術革新の基盤を作ろう
- 10 人や国の不平等をなくそう
- 11 住み続けられるまちづくりを
- 12 つくる責任つかう責任
- 13 気候変動に具体的な対策を
- 14 海の豊かさを守ろう
- 15 陸の豊かさを守ろう
- 16 平和と公平をすべての人に
- 17 パートナリシップで目標を達成しよう